

佐藤渡辺社長

◆3カ年計画の目標は

社長就任と同時に3カ年の中期経営計画が走りだした。最終年度となる21年3月期は、連結ベースで売上高400億円以上（17年度実績385億円）、営業利益17・5億円以上（14億円）を目標に掲げる。長期的にインフラ工事が新設からメンテナンスへシフトする中で、協力会社の確保などの施工体制の強化やメンテナンス工事に対応できる人材育成に取り組む考えだ。

◇

——来年以降の事業環境は。

「19年は、2020年東京五輪・パリンピックに向けた工事が追い込みで発注され、非常に忙しい1年になると見ている。その中で中期経



いしい
なわたか
石井 直孝氏

この人に聞く

施工体制強化と人材育成急ぐ

営計画の最終年度を見据えて毎年計画を立て、確実に実績を上げていく。五輪以降は官庁工事の発注が減少するだろうと言われているが、新設工事は減少しても維持管理のメンテナンス工事は継続的な発注

透水性コンクリート舗装の『パーミアコン』という独自の景観舗装技術を保有している。万博開催を好機ととらえて積極的に独自技術のPRを図る。PRをより効果的にするために、パーミアコンを

「今後のインフラメンテナンス時代に対応できる人材育成に努力する。五輪や大阪万博が終わった後もインフラのメンテナンスは続くが、一方で将来的には発注者側の人材不足が懸念されている。今後は道路の

状況を確認し、最適な補修工法を発注者側に提案する舗装診断士の資格を持つ人材が求められるだろう。社員の資格取得に向けて社内で講習会を実施しており、今後は資格試験の結果などを踏まえて講習の内容を検討する方針だ」

——働き方改革の実現に向けた取り組みは。

「時間外労働の削減と休日の確保を段階的に進めている。日本道路建設業協会が設定したロードマップを基に、19年は時間外労働の上限を900時間、20年は840時間に定め、実現に向けて取り組んでいる。昨年からは時間外労働の実態把握を目的とする勤怠管理システムを導入しており、特に時間外労働が長時間の傾向がある社員には指導を実施している。少しずつではあるが、着実に減少している」といふ手応えを感じている。

注があるの見込んでいます。全体のパイが減る中で、確実に受注できるよう実績を整えていく」

——2025年大阪万博の開催が決定した。

「万博施設の整備に伴い、環境景観舗装が発注されるだろう。当社は万博会場や美術館周辺などで採用実績がある

「万博施設の整備に伴い、環境景観舗装が発注されるだろう。当社は万博会場や美術館周辺などで採用実績がある

——受注体制強化に向けた人材育成の方針は。

「万博施設の整備に伴い、環境景観舗装が発注されるだろう。当社は万博会場や美術館周辺などで採用実績がある

